

クリエイティブ京都^{MT}

Aug. 2005

08

No. 002

Management & Technology for Creative Kyoto

がんばる企業をサポートするビジネス情報誌

CONTENTS

京都産業21環の会	1 ▶ 2
京都インターネット利用研究会	3 ▶ 4
新京都ブランドレポート	5 ▶ 6
京都産業21からのお知らせ	7 ▶ 8
創援隊交流会	9
大学リエゾンオフィス紹介	10
設備貸与制度	11 ▶ 12
受発注機械設備コーナー	13
京都産業21から助成事業のお知らせ	14
中小企業技術センターの事業から	15
研究報告から	16
業務紹介	17 ▶ 18
研究報告から	19
中小企業技術センターからのお知らせ	20
お客様相談室から	21
京都の経済	22
行事予定表	23

京都府産業支援センター <http://kyoto-isc.jp/>

財団法人 京都産業21 京都府中小企業技術センター

京都産業21環の会（KSR） 平成17年度定期総会開催される

京都産業21環の会の定期総会・交流会が、7月4日（月）リーガロイヤルホテル京都で開催されました。多くの会員が参加する中、議案審議、グループ活動プレゼンテーション、交流会など盛りだくさんの催しとなりました。

中小企業を取り巻くきびしい経済環境の中、会員の「連携」の促進と「自立」を図り、新しい事業への取り組み、新しい商品開発が加速されることが期待されます。



会長あいさつ



NKE株式会社代表取締役
中村 圭二氏

これからの中小企業は「自立」と「ネットワーク」が必要と考えられます。お客さまに感謝・感動・感激していただけるようにスキルを上げていかなければなりません。これがひとつのキーワードになると考えています。さらに環境、健康、生活の質的向上というニーズに対応できるように中小企業は業種・業態を超えたもっと大きな次元での新連携をすすめていく必要があります。

以上の観点からお互いが強みをもった企業同志、また志を同じくする企業が結束して連携を組んで、グローバル化、技術革新に対応していきます。そして、今まで一企業では対応できなかったお客さまへの質の高いサービスに応えるため、強い部分のさらなる強化、弱い部分を補完しあい、さらに新成長分野へのチャレンジ、新事業の創出、新商品の開発へトライすることが大切だと考えています。

また一方、国の中小企業施策においては、新事業創出促進法、あるいは経営革新支援法などを統合して、新たな柱として「新連携」を加えて、今年4月に中小企業新事業活動促進法が施行されました。

今後KSRとしては、財団法人京都産業21の指導のもと、メンバー企業は新しい事業にトライすること、また新しい事業ドメインを広げていくことなどに積極的に取り組んでいきたいと考えています。関係各位のさらなるご協力、ご支援をお願いいたします。

来賓祝辞



経済産業省近畿経済産業局
中小企業課長
井岡 秀自 氏
(近畿経済産業局長 福水健文氏代理)

会の名称を変えられ、会員の方々が目的別にグループを組まれ、連携してビジネスに結びつく活動は、まさに時宜を得た取り組みであると共感しています。

近年、国際競争力の激化の中、中小企業のおかれている環境は、従来の下請構造系列化が大きく変化しており、また経営資源、すべての事業を中小企業1社がまかなって競争力を維持するのはむづかしい状況になっています。

今年の中小企業白書においても、情報あるいは技術または販路においても他社との協力が不可欠であることが紹介されています。事業活動につきまちは、商品開発力、技術開発力の向上や販路の拡大、市場開発能力の拡大といった、いわゆる高付加価値を目的とした背景が多いと分析しています。今年4月、中小企業庁ならびに経済産業省として、従来の経営革新法あるいはビジネス創造法ならびに新事業創出促進法という3つの法律をひとつに整理し、「新連携」という事業を位置づけて、新たな法律として中小企業新事業活動促進法を施行させています。

新連携支援は、経営資源の限られている中小企業に対して分野の異なる業種が連携して、事業化に取り組んでいくことを支援するものです。近畿経済産業局は、独立行政法人中小企業基盤整備機構近畿支部で、民間経験のある事業者、公認会計士、税理士など専門の方に常駐していただき、事業の掘おこしから最終的な事業化までの支援に取り組んでいます。今年度は約100件あまりの事前審査があり、最終認定にむけて調整を行っています。この認定は、2ヶ月に1回とか必要に応じて認定しており、これにうまくのれなかった場合でも、またブラッシュアップして認定に取り組んでいただければと思います。このような取り組みはまさに「環の会」の皆さまの事業展開と同じと考えています。ぜひ具体的取り組みをしていただき、成果を得られることを期待しています。

今後とも中村会長のリーダーシップのもと、会員皆さまの熱意と智恵で事業活動の成果を上げられることをお祈りいたします。



京都府副知事
麻生 純氏

昨年、環の会という名前になったことに時代の流れを感じています。昭和46年、京都府下請企業振興協会の協力会として発足され、当時は、大企業、それから中小企業、そして親企業と下請企業という関係でした。今回協力会というところから脱皮されて、「環の会」となり、まさに名前の面においてもいろんな支援組織と連携しながら、けれど自分たちは自立してやっていくのだという思いを強く感じています。時代が変わったと思いますが、その間ずっと会の皆さんがいろんな形で交流を深められたその成果が現れたのではないかと、そのように思っています。これからもぜひ、この環の会がますます発展されることを心から期待しています。

京都府も財団法人京都産業21と連携して、中小企業の皆さまを含めた新しい産業の育成に取り組んでいます。ケイタイ産業につきましても、京都の新しい地場産業として発展してきています。そして、これからもうひとつ本格的に取り組んでいく内容として、試作産業があります。やはり、京都はものづくりです。ものづくりの伝統がややもすれば薄れてきている今、試作ネット、試作産業が新しい境地を開くのではないかと、期待を込めた内容が京都新聞にも紹介されました。環の会の皆さまが活躍される分野と考えられます。

府としても、一生懸命応援させていただきますので、試作産業を新しい産業として中小企業の皆さまのご活躍できるビジネスチャンスとして、育てていただきたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。



財団法人京都産業21理事長
立石 義雄氏

環の会は昭和46年京都府下請企業振興協会協力会として発足されて以来、30余年にわたり中小企業者の交流を促進し、経営者の意識改革と経営改革に貢献してこられました。

今日の経済状況は、低迷の続いた景気もようやく明るさが見え始めていると思います。しかし、ものづくり産業におきましてはグローバル化の進展による市場競争のさらなる激化、IT、ナノテクをはじめ、めざましい技術革新など激動の時代を迎えており、これらの状況に対応して新しいビジネスモデルの構築、創造、経営革新が求められています。

さらに、地球環境の問題、安心安全などの問題などに正面から取り組むことが責任ある企業行動として、求められていると考えています。

環の会では、このような企業環境に対応するため昨年度総会で、目標を新たにされ、企業のネットワークと自立化を活動の柱として企業グループの育成や交流活動に取り組まれていることを心強く感じています。

京都にはものづくりに関する高い技術の蓄積と企画開発型や多品種少量生産型など多数の企業群があり、さらに多彩な大学と知の資源も豊富です。これらの資源を最大限に活用して、新しい企業連携や産学連携を通じて21世紀型の創造的な商品開発、新市場の開拓に取り組まれることを大いに期待しています。

財団法人京都産業21も本年4月に組織改革を行い、鋭敏で機動力のある組織体制へ整備し、府と連携を密にして、顧客の皆さまへのワンストップサービスの向上、試作産業プラットフォームの構築、さらには産学公の連携、経営支援機能の強化など、京都産業の振興に鋭意努力を行っているところです。ぜひ、一層のご活用をお願い申し上げます。

最適モノづくりグループ NIKE (株) 三原 潤氏



連携事業のコンセプトは、関連する得意な技術を持つ企業がネットワークを構築し、相互連携、相互補完することで積極的なシステムを提案し、ビジネスチャンスを広げることです。共同ブランドの商品を設計、製作、販売を目標としています。各社独自の技術を集め、FA・介護補助装置の開発を行っています。

現在成果として、ローコストタイプロボットのプロトタイプが完成に近づいています。1モータ・ワイヤドライブ駆動のため、コストが安く、音が静か、省スペースという特長があります。

今後は、グループの連携を強化し、(財)産業21の試作産業プラットフォームへの参画をめざしています。

食の事業化グループ (有) エスアールフードプロデュース 斎藤 三映子氏



京都では古くからいろいろな野菜が収穫され、受け継がれてきました。栄養的にも優れた京野菜は京都の食文化を支える重要な役目をしています。

グループの目標は、1.農業生産・加工の体験カリキュラムの構築 2.京野菜のさつまいもに特化して、さつまいもの商品開発、販売店の展開 3.農業イベントのプロデュース 4.スローフード・スロースタイルの提唱です。京野菜を軸に多角的な農業の事業化を行っています。

活動として、京都近郊の農山村にさつまいもを柱に、有機・無農薬京野菜の委託生産を予定しています。事業化推進のために、コンセプトに賛同していた企業を募っています。

自立化塾グループ (有) 日光電機製作所 今井 琢也氏



自立とは、「自分がどうあるべきか、どう進むべきかを『自分で考え』目標に向かい進むべき道に向かい『自らの足で行動する』こと」という定義に基づき、勉強しています。目的は、主に若手経営者や後継者を対象に、研修で得た知識を基に、塾生同士の意見交換など、互いに刺激しあう中で自立を促進し、活力ある次代の経営者を育てることです。

例えば、自社の業績が悪くなった時、業界が悪い、不景気だというのは他立発想であり、問題を解決できない考えに陥っています。解決には自立的発想で、自分に全て責任があり、考えることで道が開けるという自立の根幹を学びました。

プロモーションサービスグループ ps21 (株) シティ・デザイン 伴田 浩氏



当グループは、新しい商品を開発したい企業や商品がどうしたら売れるか悩んでいる企業へ、販売促進だけでなく、一貫生産システムによる商品開発、販促企画、デザイン印刷、店舗デザイン施工、グループデザイン制作などをトータルに検討していただくシステムを構築してきました。

とくに、京都ブランドを活用したモノづくりやサービスを作りたい、売りたいお客さまに対して力を入れています。

マーケティング、販促企画、グラフィックデザイン、インテリアデザインなど各分野の専門家がコラボレーションし、トータルなサポートをローコストで提案できます。プロの連携だからできる新しいチャレンジにご期待ください。

経営革新推進グループ 宇治電器工業 (株) 里村 善啓氏



平成16年度のグループの目標は、参加企業による相互研鑽、相互啓発を通じて、メンバー企業の経営革新を達成することで、具体的には経営革新法による計画承認取得でした。結果、内2社が平成17年3月に取得しました。

平成17年度の計画は、引き続き中小企業新事業活動促進法と改正された経営革新計画承認取得に向け、活動を継続します。また、新しいメンバーを募り、ともに勉強を続けたい考えです。そして、計画承認企業も引き続き参加し、計画を確実に実施するとともに、メンバーの計画承認をサポートします。

経営革新をめざしておられる府内の中小企業の経営者の方々、当グループへご参加ください。

商品開発グループ 川並鉄工 (株) 川並 宏造氏



それぞれのオリジナル商品の発見と育成を通じて、グループ各社が自立的な発展を継続するという、大きな目標を掲げています。

「京都に世界ブランド」をと「祇園音」「Gionne」を誕生させました。そして、今年2月に開催された産業21BP交流フェアにスタッフネクタイとして、採用していただきました。営業の開発ツールとして、トータルデザインでパンフレットの製作、ホームページを立ち上げ、チラシの作成をしました。

現在、京都造形芸術大学とのコラボレーションによるデザインの開発を行っています。今後も京都造形芸術大学と連携をすすめていき、2年後京都市内での出店、3年後にはニューヨーク出店を考えています。

平成17年度京都インターネット利用研究会総会 開催される

京都インターネット利用研究会の平成17年度総会が開催され、当研究会代表京都大学学術メディアセンター教授金澤正憲氏のあいさつの後、平成16年度の活動報告、また平成17年度の活動案、予算案などが発表されました。

また、「多様化する!ネットビジネス～商売いろいろネットも色々」と題して、(有)エヌ・エフェクト代表名瀬浩史氏の講演が行われ、インターネットの現状と今後の動向など有意義なお話を聞くことができました。

講演

多様化する!ネットビジネス ～商売いろいろネットも色々～



(有)エヌ・エフェクト
代表 名瀬 浩史 氏

大阪市中央区天満橋京町2-6
天満橋八千代ビル別館8F
TEL:06-6920-4580
FAX:06-6920-4588
e-mail:info@n-effect.co.jp
URL :http://www.n-effect.co.jp

●拡大するインターネット

インターネットを通じたネットビジネスが世の中に出てきて10年になります。ネットビジネスとは何かと問われたとき、様々なやり方や情報があり、幅広く、ネットというくくりで簡単に答えられなくなってきているのが現状です。ネットビジネスに取り組むときの考え方にノウハウがあります。

最近、通販が盛り上がってきています。クロネコヤマトの宅急便では、年々オンラインショップの荷物が増えているとのことです。総務省の報告では、2003年のオンラインショップの売上は4兆5千億円で、着実な伸びを示しています。わが国でのインターネット人口も増加しており、インターネット白書では、昨年は約7000万人が使用していると報告しています。

そして、ネットビジネスでは欠かせないのが携帯電話です。現在8500万台普及し、国民の7割が所有しているといわれています。その携帯電話のサイトで「ガールズウォーカー」というのがあり、若い女性にたいへん人気があり、グループ売上が70億円あります。ケータイ電話の狭い画面では、商品は分からないだろうから本やチケット、よく知られているブランド品ぐらいしか売れないと考えられていましたが、驚くべきことにネットで初めて見る商品でも売れています。20代前半の女性たちはこだわりなく、購買行動をとっています。何もかもが売れ

るとはいえませんが、ケータイの中でも価値判断は可能であることを認識し、ネットをパソコンベースだけで考えてはいけなうといえます。

オンラインショップの本当の普及はこれからだと考えられます。男性がもっと積極的に購入するようになり、違和感なく利用する人たちが増えると思います。そして、オンラインショップの広がり関係深いのが、検索エンジンの使い方にあり、もっと巧みに使いこなすことができるようになれば、もっと盛り上がるでしょう。

●ネットビジネスの現状

1999年、家具のアオキさんがリアル店舗を閉鎖し、ネットビジネスの売上がリアル店舗を上回りました。この事実は私にはたいへん衝撃的でした。その後調べると他にもネットビジネスできっちり売上があがっている店を知りました。ドッグイヤーの時代といわれた頃です。

2001年頃から「めざせ月商100万円」を目標にネットビジネスをはじめた人たちがでてきましたが、半信半疑の人、確信している人が混在していました。ネットショップのノウハウ探しの時代で、セミナーなどが開催されていました。2003年になると、短期間で月商1000万円を売り上げるといふネットショップも現れ、通常のビジネスと同様に戦略的にどう考えるかに変化してきました。現状ではネットビジネスで儲かるかという考えはもう古く、ネットビジネスに対してどのような手順で取り組んでいけばよいのかが重要になってきています。ネットビジネスのノウハウや成功事例を自分の会社や店で、どのように展開していくのがよいのかを判断して取り組めばよいのではないのでしょうか。

●成功している取り組み

成功パターンは3つあると考えています。まず、1つ目はIT企業系の成功例です。商品を販売するのではなく、商品を販売するインフラを提供したり、ポータルサイトの



提供など胴元的な事業で収益を得ています。この分野での後発組はたいへんむずかしく、資金力、またよほど斬新なものでないとビジネスとしては成功しないでしょう。

2つ目は、小売系です。物販のネットビジネスはここ数年二極化がすすんでいます。メガストア、ネット上の強大なショップに乗り商品を販売していくのか、またはマニアックな専門商品を販売するショップのどちらかでないとネットビジネスでは生き残れなくなっています。町の商店街が衰退してきている状況がネットでもおこっています。メガストアの特徴は、大きなカテゴリを扱っているというところが非常にネット的です。アイテム数が数万点というリアル店舗ではおけない品数があり、豊富な品揃えです。品数が多いと検索エンジンにひっきり購入される確立が高くなり、売上に結びつきます。しかし、品数が多いとそれだけ商品をネットにアップしたり、発送する作業はたいへんです。そのための専任担当者や役割担当が必要となり、時間・人・お金の投資をどうするかが問題となります。

逆に小さなカテゴリで勝負している専門店もあります。

特定分野に特化した大手にはないきめ細かな商品のラインアップで、きめ細かな情報提供や対応をしています。他店には負けないレベルの高い品揃えが必要です。リアル店舗にはないが、どうしてもその商品がほしいというお客さんのニーズに応えれば、早い段階で売上が見込めます。

3つ目は、メーカーです。取引先を見つけるためにホームページが立ち上げられます。その際ビジネスとしてのクオリティが重要で、ホームページの中できっちりとクオリティの情報発信していればよいのです。また、検索エンジンの対策をどうするかも大切です。

●スタート時点、見直し時に考えること

ネットビジネスをスタートさせるとき、メガショップか専門店にするのか？目的を何にするのか？どこで勝負できるのかの見極めが大事です。取り組み体制はどのような体制するのか、専門の担当者をおくのか？など考えなければなりません。

そして、業界の動きをチェックすることも重要です。競合他社の動きを調査し、ネットで売り上げているのかどうかでネットでの市場性を知ることができます。これは後発組のメリットです。

戦略をたてる際、重要となるのが検索エンジンの上部に表示するSEO*対策です。SEOをどのように扱うかで売上が大きく変わってきます。ネット的な戦略として、どのキーワードを入れても自分の会社や店が表示されるということは重要です。

*SEO (search engine optimization: 検索エンジン最適化)

【お問い合わせ先】

事務局 ((財) 京都産業21 産業情報部)

TEL: 075-315-8677 FAX: 075-314-4720
E-mail: info@mail.joho-kyoto.or.jp





Advanced Thin Film Technology
Sharpening the Cutting Edge™

サムコは創造性豊かな製品を

世界に送りだしています

- CVD装置
- ドライエッチング装置
- ドライ洗浄装置



薄膜と表面技術

<http://www.samco.co.jp>

サムコ 株式会社

2004年12月1日より
(株)サムコインターナショナル研究所から社名変更しました。

本 社 〒612-8443 京都市伏見区竹田糺屋町36 TEL(075)621-7841 FAX(075)621-0936
営業所 東京・東海・つくば・仙台・福岡・上海・台湾・シンガポール・カリフォルニア

グループ各社の強みを結集、 新事業創出をめざす

レポート⑫北近畿ソーインググループ

設立から10年という節目を迎えた北近畿ソーインググループ。きびしい繊維・衣料業界の構造変革にどのように対応していくか、また、グループ員各社それぞれの強みをいかに引きだしていくかをグループ長・山室保雄氏(将光株式会社 代表取締役)に伺いました。



グループ長 山室 保雄 氏

将光株式会社 代表取締役
綾部市宮代町前田13-6
TEL:0773-42-1026
FAX:0773-42-9201

●北近畿ソーインググループの概要

このグループの初代グループ長は、(有)高橋縫製の高橋秀雄氏が就任されました。いろいろなお苦勞を重ねられ、地盤を固めることができました。私が2代目グループ長を引き継ぎました。

グループの設立から10年が経過し、メンバーも時代の変遷と共に変化しています。グループの設立当初は、縫製工場のグループ員が多かったのですが、現在では、裁断、縫製、刺繍、プリント、製造など主にアパレルに関する多彩な機能が集まったグループになっています。

現在メンバーは9社で、設立当初は月1回の例会を行っていましたが、最近では2ヶ月に1回開催し、内容の濃い例会をめざして意見を集約しているところです。

●グループの主旨・目的

当グループの規約では、グループ員は福知山市、綾部市および近隣に所在する縫製関連企業の代表者となっています。そして、企業経営の安定・発展とグループ員相互の連携を強めることを目的としています。

グループの活動は、1.情報交換に関すること 2.経営・技術研修に関すること 3.その他となっています。

グループ員企業は、衣料に関する固有の技術を有し、互いが専門領域において積極的な事業開発を推進し、切磋琢磨している任意の集まりです。

ひとつの機能では解決しえなかった事業課題もお互いのノウハウをいかに、連携を強めることにより、大きなテーマにチャレンジすることが可能になるものと考えています。

また、このグループが10年以上にわたって活動でき

た大きな要因は、財団法人産業21北部支所のサポートに負うところが大きかったといえます。

●地域特性や地場産業について

この地域は、グンゼを中心とした縫製関連工場が集積しています。グンゼのOBで女性の方たちを労働力として迎え入れることにより、縫製の技術移転が自然に行われ、地場産業として発展してきた経緯があります。

現状、繊維・衣料に関する業界は極めてきびしい状況におかれています。中国の攻勢、そして業界の構造的な問題があります。この業界はよく川の流れに例えられます。川上、川中、川下というように、川上は、合織、合糸、紡績などでリストラをしたり、自分たちで中国へ進出するとか、また、事業を特化させたりするなど自前で体制を整えることができます。最近では業績も回復しているところが多くなっています。

しかし川中から川下産業、特に縫製や裁断などの加工工場は中小企業が多く、すでに贅肉はない状態ですから、もうこれ以上削るところがありません。そういった面に関連して中国からの影響もあり、非常にきびしい状況にあります。

●これまでの活動について

様々な勉強グループやセミナーを開催してきました。

特に勉強グループにおいては、P.Fドラッガー氏の著書をもとに経営の基本となる企業の目的、顧客の創造、事業の定義など、グループ員各社が自社の将来どのようにしたいか…といった有意義なものでした。

また、中国のアパレル事業の視察、徳島県の縫製工場視察、繊維事情に関する研修や勉強グループなども行ってきました。このような活動においては財団の方々いろいろなサポートしていただくことができ、おおいに助かっています。

●これからの重点施策について

まずは自分たちのビジネスを伸ばしていくために、グル

ープ員各社が「中小企業経営革新支援法」の認定にトライできればと考えています。この支援法に認定されると、企業経営に有利ないろいろな公的支援が受けられ、また優れた企業としてお墨付きにもなります。できるだけ多くのグループ員企業が、この支援法に認定されることを願っています。

そして、各社が強みを生かしそれを引きだし、グループ員企業が共同で事業を受注できる目標・チャレンジができればと考えています。

また、将来的には当グループが、組合となることを視野にいれています。今、話題になっているLLP(limited Liability Partnership)有限責任組合などについても今後のテーマとして勉強していきたいと思っています。

●今後のグループの運営と抱負

繊維業界は単価にきびしいところです。グループ員各

社のノウハウを結集して、より付加価値の高い商品づくりへシフトする必要があります。

とにかく、現状に甘えて立ち止まっているわけにはいきません。グループ員各社がひとつとなって、「危機感」「問題意識」「自分たちの強み」などについて再認識し、前進していかなければなりません。

そのためには、財団との連携はますます重要になってくると考えています。グループ員が抱える多様な課題解決に強力な支援をお願いいたします。



社 名	電話番号	業種業態	キャッチコピー
(有)高橋縫製	0773-34-0030	布帛、ニット縫製業	トラの子です。トランクス
西田縫工所	0773-24-0297	繊維裁断	いろんな生地と出合って40年、ガンコです
(有)境刺繍店	0773-42-0348	刺繍加工業	チームワッペン創りませんか。あなたのための刺繍屋さん
塩見プリント	0773-49-1173	染色整理	こだわりのワンポイントのプリント屋です
(株)シゲノ	0773-42-2884	自動車内装部品製造	介護、通販、スポーツ、常に新しいことに挑戦するメーカー
メリットカッティング	0773-44-0799	裁断加工業	高品質の裁断で即納OK
(有)三葉商事	0773-75-5514	刺繍業、小物雑貨製造業	機械刺繍からビーズ付け、手作業まで企画製造
ヨーク	0773-33-2323	ニット製品縫製加工業	きれいな品ですね、の一言が嬉しくて28年
将光(株)	0773-42-1026	縫製加工、繊維製品製造業	足を魅せて半世紀、スパッツのこだわり工房

【お問い合わせ先】

(財)京都産業21 北部支所

TEL:0772-69-3675 FAX:0772-69-3880
E-mail:nshisho@ki21.jp

恵まれた自然の中で、独創的な創造企業をめざして。



- ◆京の料亭 千寿閣
- ◆京料理 紙屋川
- ◆チャイニーズレストラン 楼蘭
- ◆焼魚肉菜レストラン ファーム
- ◆とり料理 わかどり
- ◆カフェテラス パウハウス
- ◆日本庭園
- ◆ガーデンチャペル セントオーガスティン
- ◆ブライダルサロン
- ◆しょうざんプール
- ◆しょうざんボウル
- ◆染織工芸館
- ◆染織ギャラリー
- ◆きもの・帯 ◆アパレル ◆テキスタイル

しょうざん
光悦芸術村

〒603-8451 京都市北区衣笠鏡石町47(金閣寺北800m)
TEL.075-491-5101(代) FAX.075-495-2089
URL <http://www.shozan.co.jp/>

中小企業のための 『ITツール活用WORKSHOP!!』

参加メンバーを募集します！

中小企業が知っておきたい様々なITツールについての「WORKSHOP!! (研究会)」を実施します。

ぜひ、この「WORKSHOP!!」にご参加いただき、最新のIT技術に出会っても慌てることなく、自社に合ったITツールを見つけてください。

- 内 容** ● 中小企業の経営をサポートするITツール、またその導入事例について、毎回テーマを変えて参加メンバー間で、または外部より専門家の方をお迎えして、気軽にレクチャー・勉強会を行います。
- 実施期間等** ● 月1回・6ヵ月間(6ヵ月で1期分修了予定) 1回2時間程度
※2005年9月スタートの予定です。期間中は自由参加です。
- 開催場所** ● 京都府産業支援センター(京都リサーチパーク内)
- 参加方法** ● ご参加いただくには「WORKSHOP!!」にエントリーしていただきます。
- 費用等** ● 【エントリー費用】
お一人様 3,000円
(初回エントリー費をお支払いいただきますと、期間中全ての「WORKSHOP!!」にご参加いただけます)
以下の会員の方にはエントリー費に特典がございます。
- | | |
|------------------|----|
| 京都インターネット利用研究会会員 | 無料 |
| KIIC会員 | 無料 |
| 京都メディステーションご利用者 | 無料 |
- 主催** ● 京都インターネット利用研究会・(財)京都産業21
- テーマ案** ● IT導入事例紹介、最新ITサービス・製品紹介、IT化戦略策定講習 等々
参加者の聞きたい・知りたいテーマを取り上げていきます。

メールでエントリーを受け付けています。貴社名・参加者・連絡先・会員登録の有無を本文にお書きいただき、表題に「ワークショップ参加」とお書きのうえ以下のアドレスまでお送りください。

【お問い合わせ先】

(財) 京都産業21 産業情報部(原田)

TEL:075-315-8677 FAX:075-314-4720
E-mail:info@mail.joho-kyoto.or.jp



**TOSE
SOFTWARE**

**25th
NexTose**

地球のココロおどらせよう

ゲームソフトから

モバイルコンテンツまで

多彩なデジタルエンターテインメントを

創造し、広く社会に貢献します。

株式会社 トーセ

〒600-8091 京都市下京区東洞院通四条下ル
TEL.075-342-2525 FAX.075-342-2524

事業内容…◎ゲームソフト企画・開発 ◎モバイル・インターネット関連コンテンツ企画・開発・運営

グループ会社…株式会社ティーネット/東星軟件(上海)有限公司/東星軟件(杭州)有限公司/Tose Software USA, Inc.

ホームページ <http://www.tose.co.jp/>

〈証券コード4728、東証・大証一部上場〉

IT講習会のお知らせ

企業事務に必要なスキル養成を目的としたパソコン講習会を行います。効果的かつ実践的なアプリケーションの使い方や、その考え方について学びます。皆様のご参加をお待ちしております。

講座名・内容	実施日	講座料	会員価格	難易度
商用ホームページ作成講座(3日間) HP作成の基礎／アクセスしてもらえるWEBサイトとは?／デザイン、色彩／ショップ機能等についての講座です。	8月23日、25日、29日	12000	9000	★★★
エクセルビジネス活用講座(2日間) エクセルをもっとビジネスで使うために様々なテクニックを学びます。	9月1日、2日	10000	7000	★★★
アクセス初級講座(2日間) とっつきにくいと敬遠されるアクセスを基礎から学習。	9月15日、16日	8000	6000	★★★
アクセス応用講座(2日間) 初級を卒業したらこちら。より深く効果的な使い方を学びます。	9月29日、30日	8000	6000	★★★★
パワーポイント講座 効果的なプレゼンテーション資料の作成が出来るパワーポイントの活用について学びます。	10月13日	4000	2000	★★
アクセスビジネス活用講座(2日間) アクセスは様々なビジネスシーンで活躍出来ます。ビジネスシーンで有効な活用方法について学びます。	10月20日、21日	10000	7000	★★★★★
画像処理講座(2日間) 安価で高機能なソフト「フォトショップEL2.0」を使ってWEBやチラシ、資料等に使える画像処理の手法を学びます。	10月28日、31日	8000	6000	★★
動きのあるホームページ作成講座(2日間) 動くページはやっぱり目を引きまします。注目させたい部分を動かしてみましょう。そのための方法を「ホームページビルダー」を使って学びます。	11月17日、18日	8000	6000	★★★

- 講習時間…10時～17時
- 講習会場…京都府産業支援センター2F、5F
(京都市下京区中堂寺南町134)
- 申込者が定員を超えた場合、受講数が6名に満たない場合、参加をお断りする場合がございます。
- コースの難易度は★1つから5つであらわしています。
★の数が多いほど高難易度です。
- 受講料には、テキスト代を含みます。

- 申込方法…必要事項をご記入の上、締切日(各講座7日前)までに、FAX、メール、またはホームページからお申込ください。
記入必要事項【貴社名、参加者氏名、所属部・役職、e-mail、TEL、FAX、KIIC交流会・京都インターネット利用研究会の参加の有無、受講を希望される講座名】
※お申込メールアドレス…info@ki21.jp (件名は「IT講習会申込」として下さい)
※お申込FAX…075-314-4720
※ホームページ…http://www.ki21.jp/information/it_koushu/

※KIIC交流会、京都インターネット利用研究会の会員につきましては、受講料の一部を会より補助いたします。

KIIC交流会、京都インターネット利用研究会へのお申込、お問い合わせ先：TEL 075-315-8677／FAX 075-314-4720

【お問い合わせ先】

(財)京都産業21 産業情報部(魚島)

TEL:075-315-8677 FAX:075-314-4720
E-mail:info@ki21.jp



人材派遣はパソナ。

- 人材派遣/請負
- 新卒派遣
- 人材紹介
- 再就職支援

ホームページ www.pasona-kyoto.co.jp/

株式会社パソナ京都

京都本社 TEL.075-241-4447

京都市下京区四条通堺町東北角四条KMビル4階

滋賀支店 TEL.077-565-7737

草津市大路1-15-5ネオオフィス草津

© by Sean Hepburn Ferrer and Luca Dotti. © MARK SHAW/MPTV ORION PRESS

第3回創援隊交流会（京都会場）参加企業募集中!!

第二創業歓迎!ベンチャー企業等の販路開拓を支援します!

(財)京都産業21では、第二創業やベンチャー企業等で自社製品等の販路開拓でお困りの方と創援隊との交流の場として、「創援隊交流会」を開催しています。

創援隊はボランティアベースで販路開拓を支援するネットワークで、ベンチャー企業等の開発製品等の売り込みのサポートをします。ただいま、創援隊交流会で創援隊メンバーへ自社製品等の販路開拓支援を求めるプレゼンテーション及び交流を希望する企業を募集していますので、ふるってお申し込みください。

第三回創援隊交流会概要

【開催日時】

平成17年9月27日(火) 午後2時~5時

【場 所】

新都ホテル 陽明殿の間(京都市南区京都駅八条口)

【申込方法】

「創援隊交流会応募用紙」に必要事項をご記入の上、持参・郵送又はE-mailでお申し込みください。

【応募締切】

平成17年8月25日(木)必着



※創援隊交流会事業について詳しくは

「創援隊」ホームページ<http://www.ki21.jp/Souentai/>をご覧ください。

※ホームページから応募用紙もダウンロードできます。

【お問い合わせ先】

(財)京都産業21 新事業支援部
ベンチャー支援グループ

TEL:075-315-8848 FAX:075-323-5211
E-mail:shinjigyo@ki21.jp

未来ってどうなっているんだろう?

空飛ぶ車、ロボット、飛び出す映画…。

私たちの仕事は電子部品というタネを、
エレクトロニクスの世界に送り込むこと。

つまり、あなたが想像する豊かな未来を実現すること。

携帯電話、カーナビ、パソコン…。

ほら、ちょっと前に想像していた未来が、
もう今は実現されているでしょう?

私たちの創る小さな部品は、未来の始まり。

小さな部品で、エレクトロニクスの世界に
たくさんの花を咲かせていきます。



ムラタの部品が
未来を創る。

Innovator in Electronics

muRata
村田製作所

株式会社村田製作所 本社：〒617-8555京都市長岡京市東神足1丁目10番1号 お問い合わせ先：総務部 phone:075-955-6786 <http://www.murata.co.jp/>

京都府立大学の研究成果を地域へ

京都府立大学地域学術調査研究センター



京都府立大学は、地域に根ざす公立大学として、京都府における地域研究を重視し、多くの成果を蓄積してきました。「地域学術調査研究センター」は、京都府域における自然、歴史、産業、文化、社会等に関する学術調査・研究を実施し、その成果を府民に還元することを目的として、平成5年10月に発足しました。

本センターは、京都府立大学の研究機能・成果と地域・行政・企業等の課題を結ぶ窓口です。大学における研究成果を地域社会に還元するとともに、地域・行政・企業等との連携を推進するために、次のような活動を行っています。

- 本学教員の研究概要等を地域・行政・企業等に紹介し、具体的な連携に結びつけるための基礎データとしての「研究者データベース」の整備。
- 地域からの要請等を踏まえ、地域課題の総合的研究を進めるために課題に応じた学部・研究科を横断した研究グループのコーディネート。
- 地域課題をテーマとした「地域貢献型特別研究 (ACTR)」との連携を図りながら、公開シンポジウムの開催。
- 公開シンポジウム、「特別研究」等の研究成果を府民へ広く還元・紹介するため、年報及びセンターニュース等の発行。
- 産学公連携フェア等へ積極的に参画して研究概要等をPRし、産学公連携の推進に貢献。

本学には、文学部、福祉社会学部、人間環境学部、農学部の4学部及びそれぞれの大学院があり、約150名の教員が様々な分野の研究を行っています。栄養科学・食品化学、バイオテクノロジー等の産業と関係の深い分野でも活発な研究が行われており、去る6月25日、26日に京都国際会館で開催された第4回産学官連携推進会議にも下記の4つのテーマで出展しました。

- 人間環境学部 バイオプラズモニクス研究チーム (石田昭人 助教授)
ナノフォトニクスの根幹技術の一つである「プラズモニクス研究」についての展示
- 人間環境学部 葉緑体ゲノム工学研究チーム (椎名隆 教授)
環境安全性に優れた葉緑体形質転換植物開発技術である葉緑体ゲノム工学についての展示
- 人間環境学部 食品化学研究室 (佐藤健司 教授)
食品素材に利用可能なペプチドの大量分画法等についての展示
- 農学研究科 遺伝子工学研究室 (荻原保成 教授、増村威宏 講師、森田重人 助手)
穀類の胚乳工学を用いた新しい機能性食品の開発についての展示

【お問い合わせ先】

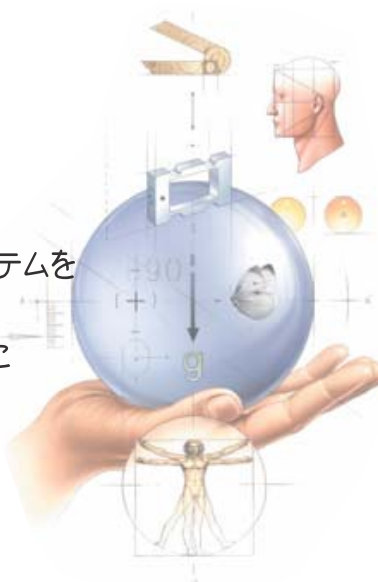
京都府立大学地域学術調査研究センター
(事務局:庶務課企画総務係)

TEL:075-703-5102 FAX:075-703-5149

E-mail:kikacho@kpu.ac.jp URL:<http://www.kpu.ac.jp/shomuka/center/index.html>



計ることの未来を
見つめ続けるイシダは、
さまざまな計量機器・システムを
ご提供することで、
豊かな明日の社会づくりに
貢献してまいります。



夢も未来も はかりたい

株式会社イシダ <http://www.ishida.co.jp>

本社 京都市左京区聖護院山王町44番地
〒606-8392 Tel(075) 771-4141

東京支店 東京都板橋区板橋1丁目52番1号
〒173-0004 Tel(03) 3964-6111

滋賀事業所 滋賀県栗東市下鈎959番地1
〒520-3026 Tel(077) 553-4141

京都産業21が設備投資を応援します！

企業の方が必要な設備を導入しようとする時、希望される設備を財団が代わってメーカーやディーラーから購入して、その設備を長期かつ低利で割賦販売またはリースする制度です。

区 分	割賦販売	リース
対象企業	原則、従業員20人以下（ただし、商業・サービス業等は、5名以下）の企業ですが、最大50名以下の方も利用可能です。	
対象設備	機械設備等（土地、建物、構築物、賃貸借用設備等は対象外）	
対象設備の金額	実績が1年以上あれば100万円～6,000万円まで利用可能です。	
割賦期間及びリース期間	7年以内（償還期間） （ただし、法定耐用年数以内）	3～7年 （法定耐用年数に応じて）
割賦損料率及び月額リース料率	年2.50% （設備価格の10%の保証金が契約時に必要です）	3年2.990% 4年2.296% 5年1.868% 6年1.592% 7年1.390%
連帯保証人	一定の要件を満たす連帯保証人が必要です。	

割賦販売とリース、どちらにしますか？

それぞれの特徴をご理解のうえ、皆様に合った方をお選びください。

	割 賦	リ ー ス
所有権	・完済まで財団に所有権があり、完済すると所有権が割賦企業に移転します。	・リース期間中及びリース期間終了後においても所有権は財団にあります。（リース期間満了後は、返還するか再リースするかを選択していただきます。）
メリット	・償還は6ヶ月据え置きです。 ・設備価格相当分は減価償却ができます。また、割賦損料部分は経費処理できます。 ・償還期間が法定耐用年数以内であれば最長7年と長期であるため、月々の償還負担が軽減できます。	・リース料は経費として全額経費処理できます。（そのため、節税効果があります） ・減価償却、固定資産税、損害保険料の支払いなどは財団が負担します。（管理事務も不要） ・契約時に自己資金が不要です。
留意事項等	・契約時に保証金として設備金額の10%を納付していただきます。 ・財団を受取人とした損害保険（火災保険）をかけていただきます。（保険料は企業負担） ・割賦設備の固定資産税を負担しなければなりません。 ・維持管理費は負担していただきます。	・維持管理費は負担していただきます。 ・リース期間中は、リース設備の更新及び中途解約はできません。 ・リース期間満了後、ご希望により、原契約の1か月分のリース料で1年間の再リース契約が可能です。再リースは何回でもできます。 ・リース設備は再販可能なものに限りします。

誰でもつき合える機械ほど、
すごい技術が隠されている。
ひとりひとりの人に、
機械のほうから合わせてくれる。
そんな、人と機械の関係。
センシング&コントロール技術で、
人と機械のベストマッチングを。



OMRON
Sensing tomorrow™

新工場が稼働、新しい設備導入で 品質と生産効率を追求



有限会社田中ステンレス
代表取締役 田中稲生 氏

住 所 ●宇治市横島町三十五番地8
TEL ●0774-22-4702
FAX ●0774-24-1318
URL ●<http://www.tanaka-stainless.com>
業 種 ●建築金物部品および機械金属加工部品の製造

● 御社の事業内容をお聞かせ下さい。

当社は昭和43年創業で、建築金物部品の切削加工と機械金属部品加工を行っています。建築金物部品は約300種類あり、95%がステンレス製の丁番部品（丁番の中心・儀星）です。

また、機械金属部品加工は、主に医療機器部品、半導体製造装置のフレーム、工作機械の工具取付ホルダーなど極めて高い精度が要求される部品を生産しています。この分野に注力した事業展開のため、今年6月、3箇所に分散していた工場をまとめ、新工場を建設し新しく稼働しました。

● 設備貸与制度を利用して、いかがですか。

財団とのお付き合いは約20年ほどになり、緊密になりましたのは約10年前からです。設備貸与制度を積極的に活用し、これまでに8回ほどお世話になっています。

財団職員の方からさまざまな情報やアドバイスをいただいていますので、事業の節目の設備導入は貸与制度の活用をはじめに検討するようにしています。最近では

マシニングセンターや製品の品質チェック用の三次元測定器、そして今回、自動旋盤（両端加工機）を導入いたしました。時代にあわせて設備の更新は必要不可欠と考えています。

● 今後の事業展開について、お聞かせください。

新しい設備も導入しましたので、生産性を上げなければなりません。また、短納期に対応できる体制をつくり、新規の受注に積極的に取り組むことができる余力をもたなくてはと思っています。売上拡大指向ではなく、現状の設備で効率を追求することが先決だと考えています。

また、独自技術の向上を視野に入れた人材育成が不可欠と考えています。社員一人ひとりが創意工夫をし、よりレベルの高い技術にチャレンジしてほしいのです。

「品質・納期を第一にお客さまのニーズにあわせ、“丁寧”かつ“迅速”に対応できるように日々努力していくこと」という会社の方針を社員全員が実践していくことで、明日がひらけるものと確信しています。



【お申し込み・
お問い合わせ先】

（財）京都産業21 産業振興部 設備導入支援グループ

TEL:075-315-8591 FAX:075-315-9240
E-mail: setubi@ki21.jp

向かい合うおつきあいから、
となり合うおつきあいへ。
つねにみなさまの傍らにいて、ともに肩を並べ、
声を掛け合いながら、まっすぐに同じ夢、
同じ目標に向かって歩んでいきたい。
ともに喜びを共有できるおつきあい。

On Your Side。一緒にうれしい。

みなさまのすぐとなりに京都中央信用金庫がいます。



京都 中央信用金庫

京都市下京区四条通烏丸西入ル
TEL:075-223-2525
www.chushin.co.jp

受発注あっせんについて

このコーナーについては、産業振興部 マーケティング支援グループまでお問い合わせください。

なお、あっせんを受けられた企業は、その結果についてご連絡ください。

マーケティング支援グループ TEL.075-315-8590

(本情報の有効期限は9月10日までとさせていただきます)

*備考欄に「BPNet」の表記がある場合は、ホームページのBPNetで詳細をご覧いただけます。「BPNet」のURLは、<http://www.ki21.jp/BPN/>です。

——本コーナーに掲載をご希望の方は、上記マーケティング支援グループ(担当:廣田)までご連絡ください。掲載は無料です。——

発注コーナー

業種 No.	発注品目	加工内容	地域 資本金 従業員	発注案件						
				必要設備	材料等	数量	金額	支払条件	希望地域	運搬
機-1	点火プラグ(耐熱特殊銅 エスイトT-1)	丸棒切削加工φ2.3	京都府福知山市 1000万円 60名	関連設備一式		3万本／月	月末日 翌月末日支払 全額現金	不問	受注側 持ち	材料無償支給、 継続取引希望
機-2	精密部品の切削加工φ10×150L (ABS樹脂)		京都市伏見区 500万円 16名	小物NC旋盤他		100～200個 ／回	月末日 翌月末日支払 全額現金	不問	受注側 持ち	材料支給無し
機-3	精密機械部品 (ステン・鉄・ アルミ) 小物～大物	機械加工	京都市南区 1000万円 18名	MC、NC旋盤、NCフライス他		話し合い	20日 翌月15日支払 全額現金	不問	受注側 持ち	継続取引希望

受注コーナー

業種 No.	加工内容	主要加工 (生産) 品目	地域 資本金 従業員	主要設備	月間の希望する 金額等	希望する 地域	備考 (能力・特徴・経験・等)
機-1	工業製品・部品への機械彫刻加工、銘板・金属パネル彫刻、目盛彫刻(フラット~リング)、加工部品へのマーキング彫刻、精密刻印・放電用電極刻印、チタンプレート・チタン印章加工他		京都市山科区 300万円 6名	NC制御彫刻機、自動彫刻機、オートサイクル彫刻機、強力型彫刻機、多軸型彫刻機、大型平面彫刻機、その他彫刻機、各種加工機、CAD用PC他	話し合い	不問	BPNet No.292
機-2	電線・ケーブルの切断・圧着・圧接・ ピン挿入、ソレノイド加工、シールド 処理、半田付け、布線、組立、検査	ワイヤーハーネス、ケーブル、 ソレノイド、電線、コネク タ、電子機器等の組立	京都市下京区 3000万円 80名	全自動圧着機25台、半自動圧着機50台、全 自動圧接機15台、半自動圧接機30台、アプ リケータ400台、導通チェッカー45台他	小ロット(試作 品)~大ロット (量産品)	不問	経験30年 国内及び海外に十数社の協力工場 を含む生産拠点をもち、スピーディで低コストかつ高品質な製品の提供を心がけている。
機-3	基板実装(材料調達可能)、電気機器・機械部品の組立・ 調整・完成品、OEMも可能		京都市山科区 1000万円 28名	チップマウンター、自動半田槽他関連設備 一式、組立調整関連機材一式他	話し合い	京都府・ 大阪府・ 滋賀県	経験27年
機-4	精密板金・フレーム加工(鉄、 アルミ、ステン、真鍮、銅、チ タン他)曲げ・切断、~2.5m	精密機械、制御盤、理化学 機器、製薬機械、建築金物、 フレーム類等	京都市南区 個人 3名	コンターマシン、シャーリング、プレスブレーキ、ター レット/チンプレス、セツプレス、NCコーナーシャー、 アルゴン溶接機、炭酸ガス半自動溶接機他	単品~量産品	京都市内 および 南部地域	経験20年
機-5	プリント基板実装、半田付け、線加工		京都府城陽市 個人 2名	静止型半田槽、卓上ボール盤、手工具一式 他	話し合い	京都市内 および 南部地域	経験30年 品質・納期厳守 をモットーに。
縫-1	裁断~縫製~仕上(一貫 加工)、サンプル~量産	婦人服全般(ジャケット・コ ート等)	京都市南区 個人 3名	上下差動送ミシン、穴かがりミシン、平三本、 インターロック、先巻きロック、二本針ロック、 バンドナイフ、検針機、吸排両用バキューム	話し合い	不問	
他-1	顧客(個人)情報管理システムパッケージ(PCサーバ共)開発。特に小規 模企業にあったマニュアル・規定・手順書・記録様式をPCサーバと共にカ スタマイズして納品。すぐに社員教育に利用可能。WEBデータにして納品。		京都市下京区 300万円 4名	サーバ(Linux)、パソコン他	話し合い	不問	BPNet No.291
他-2	コンテンツ構成~デザイン ~オーサリング制作	広報・宣伝・プレゼンテーショ ン用スライドショーツール	京都市中京区 300万円 1名	PC、液晶プロジェクタ、デジタルビデオカメ ラ、各種アプリケーションソフト他	話し合い	不問	BPNet No.288

「BPNet」 <http://www.ki21.jp/BPN/>

——インターネットによる受発注情報ネットワークシステム——

中小企業第二創業支援見本市等出展助成事業

<http://www.ki21.jp/dainisogyo/josei.pdf>

第1次募集案内

(財)京都産業21では、新分野進出・新事業展開・新連携等「第二創業」に取り組む京都府内中小企業に対し、見本市等出展経費助成を行うことにより、販路開拓を支援し順調な発展・成長の促進に資することを目的とし、本事業を行います。

※本事業実施要領は、こちらからダウンロードできます。→ <http://www.ki21.jp/dainisogyo/yoryo.pdf>

助成対象者

助成金交付の対象者は、助成対象業種に該当し、かつ「第二創業」に取り組む京都府内に所在する中小企業者及びその構成メンバーの大部分が府内に所在する中小企業であるグループとします。

そのうち、募集期間内に開催された見本市等へ出展したものとします。出展実績に対する助成となります。ただし、(財)京都産業21が主催する見本市等は除く。

助成対象業種

製造業 及び 情報サービス業におけるソフトウェア業

募集対象見本市等

平成17年4月1日(金)～平成17年8月31日(水)に開催された見本市等

募集件数

7件

※予定数を超えるお申込みがあった場合は、公開抽選により選定します。

申込受付期間

平成17年9月1日(木)～平成17年9月30日(金) 必着

交付決定時期

平成17年10月 ※決定者には、文書で通知します。

助成対象経費

①出展小間料 ②小間装飾費 ③光熱水費 ④出展物の運搬費

助成金の額

対象経費の2分の1以内とし、その上限額は同一企業・同一グループに対し、1年度内30万円を限度とします。ただし、その額に1,000円未満の端数があるときは、これを切り捨てるものとします。

お申し込み方法

所定の助成金交付申請書にてお申込みください。
こちらからダウンロードできます。

→<http://www.ki21.jp/dainisogyo/sinseisyo.pdf>

新素材開発と加工プロセスの最前線をご紹介します！ 新素材・加工技術セミナー

近年の産業技術の進歩を支える重要な要因の一つが、材料の進歩です。白川英樹博士が導電性高分子材料の発見で2000年ノーベル化学賞を受賞されたのは記憶に新しいですし、今日私たちの快適な生活は、材料の新しい機能・特性の向上があってこそ実現しています。

これら新しい材料の多くは、今までは利用が難しかった材料を利用する技術が開発されたことや、現存する材料と同じもしくは類似した材料であっても加工する技術の進展により、新たな機能が付加されたものです。例えば、以前は取り扱いが難しかったマグネシウム材料は、現在では携帯機器や自動車など広い分野で利用されています。新しい金属粉末成形技術であるMIMは、複雑形状への対応と高精度成形を実現させ、粉末冶金材料の利用の幅を大きく広げました。

京都府中小企業技術センターでは、この新しい材料や加工技術の重要性に着目し、府内製造業の新技術の開発及び生産技術の向上を促進する目的で、セミナーを開催しています。毎回、その技術分野の第一線で活躍されている外部講師を招き、最先端の材料・加工技術や研究の最前線を紹介いただいております。セミナーの運営に当たっては、京都大学大学院工学研究科の島教授にコーディネーターをお願いし、財団法人近畿地方発明センター及び財団法人応用科学研究所と共催しております。

セミナー内容の紹介

本年6月23日には、平成17年度第1回の新素材・加工技術セミナーを開催いたしました。日産自動車株式会社 材料技術部 シニアエンジニアの大庭敏之氏を講師に招き、「自動車用プラスチック部品の最新技術動向と今後の期待」という演題で、自動車の環境対策と高分子材料の動向について紹介いただきました。過去最多の42名が参加し、熱心に講演を聴く姿から、新素材及び加工技術に対する関心の高さをうかがい知ることができました。

今回は、その講演内容の概要を紹介します。



(セミナー風景)

自動車は少なからず環境に負荷を与えており、昨今特に、この負荷をより一層小さくすることが求められています。

最初に自動車の環境への配慮が求められたのは、排出ガス公害や騒音問題など局所的な環境問題に端を発しています。1980年代からは、フロンなどオゾン層破壊物質の削減や排出炭酸ガスによる地球温暖化問題など、地球規模の問題に広がってきました。他には、最終処分されたダストから溶出する有害物への懸念があると同時に、ダストを処分する埋立地そのものが不足している状況です。

自動車からの排出炭酸ガスを削減し地球温暖化問題への取り組みを行う上で、車両の軽量化は重要な課題の一つであり、これが自動車に使用されるプラスチック材料が増え続ける大きな要因となっています。以前は内装に多く使われていたプラスチック材料は、外装・シャーシ・エンジン周りにも利用され始めており、意匠部品から構造部品へとプラスチックの利用は広がり続けています。

廃棄物問題では、埋め立てに回っているダストのうち、約75%が高分子材料であり、このリサイクル率を上昇させることが大きな課題です。そのためには、分解・再利用しやすい構造などの設計上の取り組みに加え、使用するプラスチック材料の統合化も必要です。最近の傾向としては、物性のバランスがよく安価でリサイクルしやすいポリプロピレンの使用量が増加しています。

プラスチック材料は、品質のばらつきが大きく、劣化もしやすいことを考慮に入れなければなりません。プラスチック部品に求められる特性に対して、使用環境と材料特性のばらつきを考慮した最悪条件の組み合わせでの信頼性評価を行った上で、その材料が採用できるかどうか判断しています。

今後も更に自動車に使われるプラスチック材料は増えていくものと思われます。プラスチックの軽さという性質に加え、複雑形状が可能な成形性、電気的特性、透明さ、温かみある触感など、プラスチック独特の機能がさらに生かされていくことが期待されています。その際、プラスチック材料を採用できるかどうかは、機能が満足するというだけでなく、寿命をまっとうできるかどうかの信頼性と、ライフサイクル全体で環境負荷が少ない材料であるかどうかが重要となります。

次回セミナー開催のお知らせ

平成17年度第2回の新素材・加工技術セミナーは、9月16日(金) ジャコ株式会社八木工場で、講演会と工場見学会を行います。詳しくは、[中小企業技術センターホームページ](http://www.mtc.pref.kyoto.jp/) <http://www.mtc.pref.kyoto.jp/>をご覧ください(申込締切 8月20日(土) ただし、定員に達した場合には募集を締め切らせていただきます)。

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
応用技術室 表面・微細加工担当

TEL:075-315-8634 FAX:075-315-9497
E-mail:shinsozai@mtc.pref.kyoto.jp

生体断層計測への超微弱光量検出法の 応用に関する研究

応用技術室 電子・情報担当 井尻和夫

近年、X線を受けない断層投影技術として期待されている光CTは、光散乱媒質で形成されている動物や植物などを透視できる装置としての利用の可能性が高まっています。

レーザ光をプローブとした光CTは、生体へのダメージを与えず、局部に発生した疾患や、筋肉や皮質・肉質・血液などのヘルスマニタリングができるなど、様々な生体情報の計測を可能とするもので、従来のX線やMRI、超音波等の断層投影装置の一部の機能の補完ではなく、「異なる診断機能を有する装置」実現への可能性を有しています。

<超微弱光計測方法の考案>

生体の窓と呼ばれている600～1200nmの近赤外域の低周波パルス変調LD光源を用いた2つの高感度計測技術を考案し、その技術の有効性を検証してきました。図1は、人体と類似した豚肉を主原料とした加工肉の深さ40数mmまでの透過光量を計測した結果です。高光散乱媒質の光軸近傍の透過減衰量が、指数関数で減少し深部に達している様子を観測できました。

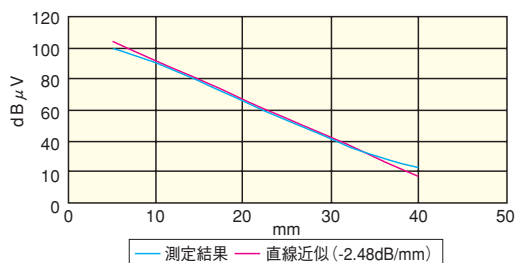


図1 加工肉の肉厚に対する透過光減衰量

<2つの計測方法>

- (1) 低周波パルス変調LD光源と、ロックイン検出法を採用した計測方法
- (2) PINフォトダイオードの接合容量変位に着目した超微弱光量の計測方法

本試作実験では、投影データから断層画像を再構成する画像データ処理の基本部分について、右に示す画像再構成の手順に従った処理系をデータ解析処理ソフト^{*1}を用いて作成しました。

画像再構成の手順

- ① 疑似画像データの作成
- ② 投影面の回転と投影データの生成
- ③ 投影データから投影画像の2次元フーリエ変換画像の生成
- ④ 2次元画像データの再構成

<回転投影データの作成>

ラドン変換法による疑似投影データの生成は、図2に示すxy座標面に被写体とした疑似画像を配置し、回転角 θ のXY座標面にY軸に平行した強度 I_0 のLDビームを照して、透過減衰光のX軸上の投影データを生成しました。

64枚の回転投影データを縦に並べてサイノグラム(図3)を

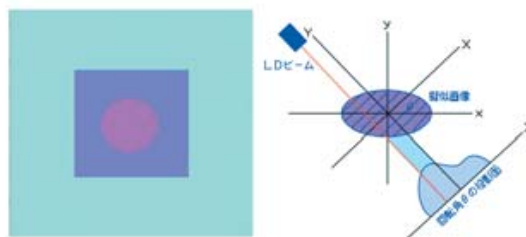


図2 疑似画像と投影データの生成

生成し、このデータの1次元フーリエ変換した結果(図4)を極座標上に転写(図5)したものが、投影画像の2次元フーリエ変換結果です。再構成画像(図6-1)は、この結果を2次元フーリエ逆変換をして実現します。図6-2、3は、実部と虚部の再構成画像です。

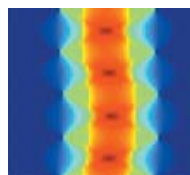


図3

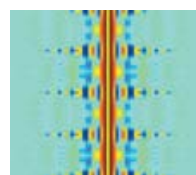


図4

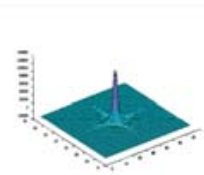


図5

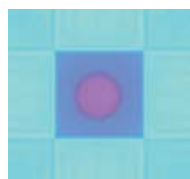


図6-1



図6-2

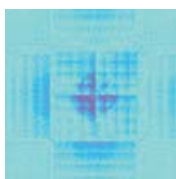


図6-3

<まとめ>

今回は、光CTの主要な構成要素である投影データから断層画像を再構成する基本部分について、シミュレーションを行ったもので、データ処理部に若干の改良を要するが、画像再生の方法について確認することができました。

今後は、線形補間やフィルタ処理等、不完全なデータ処理の改良を行い実用化を図ると共に、光断層計測手法を用いた新しい生体計測の可能性について、筋肉や皮質・肉質・血液などのヘルスマニタリングの領域を中心にした検証を進めていく予定です。

^{*1}データ解析・表示ソフト DADISP/2000 アストロデザイン株式会社 製

※研究の詳細はホームページ→<http://www.mtc.pref.kyoto.jp/gihou/giho-33/giho33.htm> をご覧ください。

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
応用技術室 電子・情報担当

TEL:075-315-8634 FAX:075-315-9497
E-mail:ouyou@mtc.pref.kyoto.jp

～機械設計・加工担当から～

基盤技術室では機械設計・精密加工・精密計測に関する技術及び製品・部品の機能評価に関する技術についての支援として、技術相談のほか精密測定機・環境試験機・CAD/CAM/CAE/RP等の設備の貸付や試験・測定を行っています。

ものづくりの重要な要素である品質・コスト・スピードを追求するために、デジタルデータの活用は避けて通れないものとなっています。

今回は、機械設計と試作に活用されているデジタル情報のキーワードをご紹介します。

3次元CAD/CAM/CAE

コンピュータを用いて立体的に形状(モデル)を作成する手法(ツール)として3次元CAD (Computer Aided Design)があります。

この3次元CADで作成したモデルのデジタルデータをNC (Numerical Control) 工作機械で加工するためのデータに変換するソフトウェアが、3次元CAM (Computer Aided Manufacturing) です。

また、3次元CADで作成した(あるいは作成しようとする)モデル(部品等)にコンピュータ上で力を加えたり、熱を加えたりというシミュレーション(解析作業)を行うソフトウェアが、3次元CAE (Computer Aided Engineering) です。従来は、実際にものを試作し、試作したものに直接力や熱を加えて実証実験を行っていましたが、この作業を3次元CAEを用いてコンピュータ上で解析し結果を出すことにより、時間と費用を大幅に削減することができるようになりました。しかし解析を行うためには、実際の条件に合わせた適切な解析モデルの設定を行う必要があり、実物により類似させるためにはノウハウが必要となります。

当センターでは、最新の3次元CAD/CAM/CAE機器を設置し、府内中小企業のものづくりを支援しています。

これらの機器に触れ、効果を理解し、積極的に活用していただくための、機器の解説と取扱実習を中心とした「3次元CAD/CAM/CAE体験講習会」(無料) や3次元CADの操作やモデリング手法を習得するための「3次元CAD実用集中講座」(有料) を開催しています。

設計業務の3次元化を検討されている企業や、最近、3次元データの引き合いが増えている企業の皆さん、一度3次元設計に挑戦してみませんか？

なお、3次元CAD/CAM/CAEは、「機器貸付」も行っています。

※詳しくはこちらを御覧下さい→URL:http://www.mtc.pref.kyoto.jp/cad_cam.htm



ラピッドプロトタイピング (Rapid Prototyping)

設計されたものが製品化される前に、試作（文字通り、試しに作るという作業）という工程があります。しかも従来は、この試作という工程に、お金も時間もかかっていました。しかし、製品化するスピードやコストの削減が、より重要視されるようになってきています。

たとえば、3次元CAEを用いてコンピュータ上で解析を行うこともできるのですが、実際に実物を手にして検証を重ねるという工程も必要不可欠なものです。

そこで登場してきた1つの試作手法が、ラピッドプロトタイピング（日本語に直訳すると、迅速な試作）です。簡単に原理を説明しますと、3次元CADを用いて作成した3次元形状のモデルを高さ方向に一定間隔（0.1ミリ程度）でスライスし、薄いスライス形状のデータに分割します。そして、このデータをもとにスライスされた2次元断面の平板を作成し、何らかの方法で次層と接合し、順次積み上げていくことにより、3次元形状のモデルを作成する手法のことであり、積層造形法とも言います。

この試作手法により、短期間でかつ比較的ローコストに試作品を作ることができます。

最初に製品化された光造形法以外にも様々な手法があり、代表的な手法としては、

- ・**光造形法** （紫外線等が照射されると硬化する光硬化性樹脂を用いて、まず、1層目の薄い平板を作成します。次に、硬化させる位置を変更して、1層目に接着させた形で次層を作成します。この動作を順次繰り返して積層する手法）
- ・**粉末結合法** （樹脂粉末を炭酸ガスレーザーにより溶融焼結させて薄い平板を形成し、順次積層する手法が粉末焼結法。また、ノズルから吐出する接着剤で粉末を固めて積層する手法が粉末接着法）
- ・**樹脂押し出し法** （加熱溶融状態の樹脂をノズルから連続して線状に吐出し、積層する手法）
- ・**シート積層法** （紙などのシート材の裏面に粘着材を塗布しておき、これをレーザーあるいはカッタを用いて切れ目を入れ、順次積層する手法）
- ・**粒子堆積法** （熱可塑性の樹脂や金属を溶融し、インクジェットプリンタのように吐出し、積層する手法）

なお当センターには、「粉末焼結法」と「シート積層法（紙積層）」によるラピッドプロトタイピング装置があります。

「機器貸付」・「依頼試験」を行っておりますので、製品開発（デザイン検討、設計形状確認、機能・性能評価）などにお役立てください。

— ラピッドプロトタイピング装置 —



粉末焼結法



シート積層法（紙積層）

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
基盤技術室 機械設計・加工担当

TEL:075-315-8633 FAX:075-315-9497
E-mail:mit05@mtc.pref.kyoto.jp または kiban@mtc.pref.kyoto.jp

魅力あるミュージアムグッズのデザイン開発

産学公連携推進室 産業デザイン担当 福岡 崇

「何のために作るのか？」

商品開発の際に必要なはずのこの目標が、立てられていないケースが案外あります。それ無しで商品開発をはじめてしまうと、「何を作るか」が決まらないうちに、幾らくらいでできるんだ？誰が作ってくれるの？在庫はどこに置くの？そんなことばかりが議論の中心になってしまいます。その結果、出てくるアイデアは「安くできて」「技術的にも簡単に作れて」「置いておいても場所を取らない」商品。この手法では、リスクを避けようとするあまり、かえって無駄な開発になってしまう危険性があります。

実はデザインの仕事は、形や色だけではなく、この「何のために作るのか？」を考えるとところから始まるのです。

今回のテーマであるミュージアムグッズを例にとると、資金や技術的に無難なものということから検討をはじめた場合、どうしても絵葉書、しおり、テレホンカード。ちょっとがんばってTシャツ。このあたりのものが案として出てきます。別にこれらのものが悪いというわけではなく、無数の可能性の中からこれらのものしか案が出てこないことに問題があるのです。

そこで、今回は目標を立てました。デザインでは「コンセプト」という言い方をすることもあります。今回のコンセプトは「教育」グッズ。ただ、このままではあまりにも抽象的なので、もう少し具体的に「京都文化を楽しく学ぶ」グッズということに決めました。

これがあると、絵葉書やしおりやテレホンカードをつくるときでも、ただの絵葉書やしおりやテレホンカードではだめなことがわかりますね？京都文化を楽しく学んでもらうにはどんな絵葉書にすればいいの？説明書きがいるのか？それはどんな内容か？他のグッズと組み合わせたほうが楽しい、わかりやすいか？そして、そもそも本当に絵葉書がいいのか。先に問題になっていた幾らくらいでできるのか？などということとは、まあ、次の話になります。

今回の取り組みでは、コンセプトを具現化したものとして、3点の試作を行いました。

1点目は「地層のメモブロック」。これは、地層の模様が印刷された分厚いメモをめくっていくと、所々で各時代の遺物が発見されるというもので、発掘するときのようなドキドキ感だけでなく、積み重なった歴史の上に自分が立っていることを実感できます。

2点目が「いっすんキューブ」と名づけた漆の立体工程・技法見本。立体になって初めてわかる下地の厚み。手に取って初めて感じられる平蒔絵と研ぎ出し蒔絵の手触りの違いや、微妙な凹凸。このキューブはそれ自体が何かの役に立つというものではありませんが、ちょうど鉱物標本のように「手に取って眺めているだけで新しい発見があり、楽しい」というものです。

3点目が石器のレプリカ。石は身近でありながら、現代では刃物としてはまず使われることはありません。これを実際に手に持って使うことによって、なぜその石が選ばれたのか、道具としてどれほど優秀だったのかということを経験として知ることができます。

これらは、当初の目標どおり、京都文化を楽しく学ぶことのできるグッズになったと考えていますが、今回はオリジナルグッズの開発と並行して、どのようにすれば「京都文化を楽しく学ぶ」ことが可能かについての検討も行いました。その結果、導き出された答えのひとつが学芸員の「解説カード」。実は、文化というのは何か特別なものではなく、普段の生活を彩るあらゆるものによって形作られています。言い換えれば、何気なく使っているこれらについての歴史や技術、背景などを知ることはすなわち、文化を知ることになります。

つまり新しいグッズ開発をしなくても、既存の商品に一工夫を加えることによって博物館ならではのグッズとなりうる、といえます。

この解説カードには、普段見慣れているものに隠されたちょっと面白い裏話が書かれています。今まで知らなかったそのようなことを知ると、さらに新しい興味へと、そしてずっと気になっていた疑問への解答へとつながるかもしれません。そうすれば、博物館の展示そのものに対しても、さらに興味を持って接してもらえるのではないのでしょうか。

実は、この可能性を見つけたことが今回の開発でもっとも大きな成果といえるでしょう。



解説カードの例：花かるた（花札）の絵柄は12ヶ月に対応しており、写真は「坊主」ではなく「ススキと月」つまり中秋の名月・旧暦の8月-を表している

※研究の詳細はホームページ→<http://www.mtc.pref.kyoto.jp/gihou/giho-33/giho33.htm> をご覧ください。

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
産学公連携推進室 産業デザイン担当

TEL:075-315-8636 FAX:075-315-9497
E-mail:design@mtc.pref.kyoto.jp

「京都府中小企業技術センター技報No.33」

平成16年度の研究成果報告書を発行しました。これは、多くの技術課題をもつ中小企業の方々に研究成果15テーマを公開し、技術支援、技術移転を目的としてとりまとめたものです。

主な研究テーマ

- 「光を用いた液相中の微量成分モニタリング(Ⅱ)」
- 「純米未利用資源のアレルギー対策用調味料生産への利用」
- 「パワー回路を有する機器のノイズ低減技法に関する研究」
- 「魅力あるミュージアムグッズのデザイン開発」
- 「丹後地域水産資源の利用に関する研究～海藻(ホンダワラ)の利用に関する研究～」
- 「凍結昇圧装置を用いた殺菌に関する研究」
- 「府内の特産品や観光資源等をブランド化するためのコンセプトの開発」

※詳細はホームページ→<http://www.mtc.pref.kyoto.jp/gihou/giho-33/giho33.htm> をご覧ください。

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
産学公連携推進室 連携企画担当

TEL:075-315-8635 FAX:075-315-9497
E-mail:sangaku@mtc.pref.kyoto.jp

京都府中小企業技術センター 研究・調査成果発表会

京都府中小企業技術センターでは、企業の皆様や大学等と連携を図りながら、研究開発や調査研究に積極的に取り組むとともに、その成果の活用により、新製品開発、新産業育成が図られるよう努めております。

今回は、上記の報告書(「京都府中小企業技術センター技報No.33」)に掲載した研究成果を中心に、各分野における研究・調査成果を発表するとともに、各発表テーマごとにブースを設置し、個別質問等にも応じます!また、センター内研究室を一部開放しますので、ご自由に見学いただけます。ふるってご参加ください。

<日 時> 9月13日(火) 10:00～17:00

<場 所> 京都府中小企業技術センター

分 野	発 表 テ ー マ	発 表 者
食品・パイオ	湯葉残液を仕込み原料とする「湯葉しょうゆ」の試作	当センター応用技術室 河村 眞也
光計測	生体断層計測への超微弱光量検出法の応用に関する研究	当センター応用技術室 井尻 和夫
	実大気測定による広領域型環境汚染多成分微量ガス濃度監視システムの性能評価に関する研究	当センター応用技術室 日置 正
材料	低融機能性セラミックス材料の開発	当センター基盤技術室 矢野 秀樹
	可視光応答性酸化チタン光触媒の開発	大阪府立大学大学院工学研究科 教授 安保 正一氏
	光触媒を用いた畜産排水脱色処理に関する研究	当センター応用技術室 中村 知彦
	着色めっき技術の開発	
表面分析	<事例研究>X線光電子分析装置(XPS)、電子線マイクロアナライザー(EPMA)及びオージェ電子分光分析装置(AES)を用いた表面解析	当センター応用技術室 北垣 寛、宮内 宏哉 基盤技術室 服部 悟
デザイン	簡易番組制作とデジタル映像技術に関する研究	当センター産学公連携推進室 松井 洋泰

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
企画情報室 企画担当

TEL:075-315-9506 FAX:075-315-1551
E-mail:happyoukai@mtc.pref.kyoto.jp

お客様相談室から

平成17年4月より、京都府産業支援センターでは中小企業の様々なニーズに臨機応変に対応するため、お客様相談室を設けております。

窓口を開き、ご訪問いただいた中で感じますのは、中小企業の経営者は、経営判断にあたって孤独であるということでしょうか。経営戦略はいろいろな情報を集めること、第三者と議論してみることを通してはっきりして来るもので、お気軽に私どもを議論の相手方としてご活用いただければ幸いです。

ご相談いただいた中の一部の事例を紹介させていただきます。

海外に商品を売ったが、代金回収の銀行手数料が高い。いい方法がないか。

インターネットの発達で、一般的な小売店でも海外に販売することが増えています。そこで問題になるのが、銀行の手数料です。この手数料が少額の取引の場合大きな問題となってきます。

手数料は、一律5,000円程度と高額です。これは、1億円であろうが1,000円であろうが同じ扱いであり、小口の取引の多い小売商の場合、2〜3万円以下のロットでの銀行手数料5,000円は重くのしかかってきます。また、ドル建ての個人小切手を送ってもらっても、取立手数料が高く、持て余すこととなります。また、クレジットカードの加盟店になり、セキュアサーバを利用してWEB上で支払いを受けるシステムを自前で持つことは十分に可能ですが、管理にかなりの労力が必要となります。

そこで、当センターでは、数あるe-moneyの中から、世界的に人氣があり、信頼性の高いサイトを紹介することとしました。

会員登録して、クレジットカードや銀行口座のデータを登録します。会員同士の資金移動は、サイト内のシステムでメールアドレスのみでできます。多少の英語力があれば、手軽にできる方法でしょう。

欠点としては、手数料が率で計算されるため、少し大きなロットのものとなると銀行の方が安くなります。また、いわゆるフィッシングメール（詐欺メール）が数多く飛び回っていますので、騙されないようにすることが大切です。

当相談室では、システム、口座の開設方法、フィッシングメール対策などを情報提供させていただきました。

商行為にはリスクが付き物ですが、新しいツールを積極的に使って得意先を増やしていただきたいものです。

弁当店を開業したいが、どのようなことに留意すればいいか。

ご本人のお話をよくお聞きし、その上で、アドバイスさせていただきました。

新規開業は、既存の店より価格なり、品質が優れている必要があります。そのため、競争相手と考えられる店の弁当を実際を買って、同じものを作ってみて、原価計算をやってみることをお勧めしました。弁当業界は、緻密な原価管理によって熾烈な競争があるだけでなく、常に天候等の不安定要因で大幅な売れ残りロスの危険をはらんでいます。商品の性格として、薄利多売のため、軌道に乗るまでの店主の労働もかなりきついものがあることをお伝えしました。

創業当初は予想外の経費もかさむものですが、できる限り初期投資を抑制することがその後の事業展開を順調にさせることを説

明させていただきました。この方は、創業するに十分な自己資金を準備されておられましたが、開業時の融資制度について説明させていただきました。

京都府の創業育成融資（開業促進）の制度は、「自己資金の範囲内で1,500万円以内」の条件があります。また、京都府が指定する起業家育成セミナーを受講、又は商工会・商工会議所等の経営指導員等の指導を受けて開業する方には、「所要資金の90%以内で1,500万円以内」の制度もあります。さらに、開業後、6カ月を経過しますと、500万円、1年を経過すると1,250万円以内の範囲で「小規模企業おうえん融資」を活用することが出来ます。

なお、創業時の融資は他には、国民生活金融公庫が新規開業資金を設けています。

食堂を経営しているが、昼食時は盛況であるが、夜は厳しい。メニューの変更を進めたい。

現在、昼食時の定食メニュー中心の営業で、コンビニ等の弁当類に押されて、価格競争で経営はなんとか切り盛りしている程度と自己分析されています。

そこで新しいメニューに切り替え、新しいお客様の開拓を考えられています。ただ、メニューを変えるに当たっては、やはり昼の安定売上に及ぼす影響について心配されておられます。

飲食店の場合、料理では、手間の関係で収益が出にくい、酒類を売り上げれば、店側に一定の利益をもたらすものです。ただ、定食食堂からお酒を飲んでいただける店に業態を変化させるためには、お客様と何らかの会話が必要であろうと考えられます。顧客は単に安くておいしいと言うだけでなく、どういう理由でこの料理ができていたのか「うんちく」なり「こだわり」を求めています。価格の一部は、店主の個性であるため、厨房にこもりきりにならず、手が空いたら積極的に会話し、お客様の名前を覚えることが必要です。店主の迫力や情熱が自然とお店を訪れた人に伝わるものです。

また、時折、付近の道路に立って、どういう人が歩いているかを見て、潜在顧客を把握してメニュー構成を検討すべきでしょう。メニューについては、数多く揃えると、どうしても売れ残りロスが生じるため、少ない種類の生鮮材料、保存のできる材料などをうまく使い回していくことが必要です。

経営判断は、適切に判断するためのデータを揃えることはできますが、どこまで行ってもエイヤーッと判断せざるを得ない部分は残ります。長年の経験も技術もあるわけですから、よく考えていただいて、自分で一番やりたいと思う方向に進んでいただくのが最適な経営判断だと考えられます。

府内主要業界の景気動向について (平成17年4月～6月)

～採算面での厳しさはあるものの、緩やかに回復に向けて動きつつある～

当センターでは、このほど平成17年4月～6月における府内主要業界景気動向の調査結果を取りまとめました。調査時点は6月末で、主要業界について業界団体及び複数の企業ヒアリング結果を要約したものです。

※詳細は、<http://www.mtc.pref.kyoto.jp/keikyo/2005/4-6/gaikyo.html> に掲載しています。

概況	4月～6月の府内主要業界の景気は、繊維染色が依然として厳しい状況が続く、半導体関連の各業種が弱含んでいます。自動車関連の各業種、環境関連の精密機械、情報サービスが好調を維持し、印刷も堅調に推移しています。半導体需要は夏以降の回復が期待されており、原材料の高騰から採算面での厳しさはありますが、全体としては緩やかに回復に向けて動きつつあります。
飲食料品	清 酒 総 菜 ・ 茶 需要減少傾向が続いています。 前年並みで推移しています。
繊維染色	丹 後 織 物 和 装 品 需要が低迷する中、絹織物等の輸入自由化がスタートするなど、業界はさらに厳しい状況に置かれています。 ・西陣帯地は、依然として低調です。 ・金襴は、緩やかながら需要が縮小傾向にあります。 ・室町問屋では、売上不振が続く、特に高級品が低迷しているため、利益の確保が難しくなっています。 ・小幅友禅は、小口注文が中心で、厳しい経営環境が続いています。 ・西陣のネクタイは、需要低迷や輸入品との価格競争等により、減少が続いています。 ・婦人服地は、消費が上向かず、引き続き厳しい状況にあります。
印 刷	需要減少傾向に歯止めがかかり、堅調に推移しましたが、採算的には厳しい状況が続いています。
京 焼 ・ 清 水 焼	受注は引き続き緩やかな減少傾向にあり、厳しい状況に変わりはありません。
電 子 部 品	・自動車関連の需要は引き続き好調を維持していますが、携帯電話やデジタル家電用部品等は単価・数量ともに弱含みに推移し、売上高は前年を数パーセント下回る水準で推移しています。しかし、半導体需要は夏以降の回復が期待されています。 ・電力設備関連や制御機器は、製造業の設備投資が堅調であることなどから、前年を若干上回る水準で推移しています。
機械金属	銑 鉄 鋳 物 一 般 機 械 ・ 産 業 用 機 械 受注量は増加傾向にありますが、原材料価格の高騰で採算は厳しくなっています。 ・半導体製造装置、中型サイズのディスプレイ(液晶等)製造装置とも前年を1割以上下回る水準で推移していますが、大型サイズのディスプレイ製造装置への需要はおう盛です。 ・金型は、取り扱う業種により、好・不調の差がありますが、採算面はいずれも厳しくなっています。 輸 送 用 機 械 精 密 機 械 乗用車等はおおむね横ばいで推移しており、特殊車両等は堅調に推移しています。 自動車関連及び環境関連の計測・分析機器等の需要が好調ですが、半導体製造関連は落ち込んでいます。
小 売	百 貨 店 前年比で減少となっていますが、一部売場の賃貸借契約への変更が大きく影響しており、その要因を除くと微減となっています。 ス ー パ ー 商 業 施 設 ・ 商 店 街 商品単価の低下傾向は続いており、食料品、衣料品、住関連品いずれも軟調となりました。 全体として財布のひもは堅く、消費回復の実感は得られていません。
観 光	・京都市内主要ホテルの客室稼働率は、好調な状態を維持していますが、先行きには不透明感があります。 ・土産物は、食品関係・工芸品関係とも売上は堅調に推移していますが、利益確保が難しくなっています。
情 報 サ ー ビ ス	顧客企業の収益回復傾向、設備投資の増加傾向を受け、需要は緩やかに拡大していますが、価格競争は引き続き厳しく、利益水準は横ばい傾向にあります。
建 設	公共工事は災害復旧工事を除けば低調な水準が続いています。住宅着工はおおむね横ばいとなりましたが、非居住用建築物は企業収益の改善等を受けて、回復の兆しもみられます。

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
企画情報室 情報・調査担当

TEL:075-315-9506 FAX:075-315-1551
E-mail:joho@mtc.pref.kyoto.jp

行事予定表

Event Schedule

お問い合わせ先： ●財団法人 京都産業21 主催 ●京都府中小企業技術センター 主催

August 2005.8.

- 19 (金)** ●マイクロソルダリング資格認定評価講習会
時間：9:00～17:00
場所：ポリテクセンター京都
- 20 (土)** ●KIIC会員交流会「マーケティング研究会」
時間：未定
場所：未定
- 22 (月)** ●廃棄物処理法対応講習会・建設リサイクル法対応講習会
時間：13:00～17:20
場所：京都ブライトンホテル
- 22 (月) ▼ 24 (水)** ●マイクロソルダリング資格認定評価講習会
時間：9:00～17:00
場所：ポリテクセンター京都
- 23 (火)** ●IT講習会「商用ホームページ作成講習会」第1回
時間：10:00～17:00
場所：京都府産業支援センター5F
- KIIC会員交流会「夢現の会」
時間：17:00～
場所：未定
- 24 (水)** ●KIIC会員交流会「2005 第2回 e-ビジネス倶楽部」
時間：16:00～
場所：京都府産業支援センター2F
- 25 (木)** ●IT講習会「商用ホームページ作成講習会」第2回
時間：10:00～17:00
場所：京都府産業支援センター5F
- KIIC会員交流会「第9回JFKプロジェクト」
時間：18:00～21:00
場所：京都府産業支援センター2F
- 26 (金)** ●上級マイクロソルダリング資格認定評価講習会
時間：9:00～17:00
場所：ポリテクセンター京都
- カニ・キトサン協議会
時間：13:30～15:00
場所：大宮国民年金センター
- 特許個別相談会・特許電子出願説明会
時間：13:30～16:30
場所：けいはんなプラザ5F
- 29 (月)** ●IT講習会「商用ホームページ作成講習会」第3回
時間：10:00～17:00
場所：京都府産業支援センター5F
- 29 (月) ▼ 31 (水)** ●上級マイクロソルダリング資格認定評価講習会
時間：9:00～17:00
場所：ポリテクセンター京都
- 30 (火)** ●容器包装リサイクル法対応講習会
時間：13:30～16:20
場所：京都ブライトンホテル

- 2 (金)** ●マイクロ・ナノ融合加工技術研究会
時間：13:30～17:00
場所：京都府産業支援センター5F
- 5 (月)** ●中小企業会計啓発・普及セミナー「経営者のための実践講座」
時間：13:30～16:30
場所：京都府産業支援センター5F
<http://www.joho-kyoto.or.jp/hitozukuri/20050905.html>
- 7 (水)** ●京都陶磁器釉薬研究会
時間：15:00～16:30
場所：京都府産業支援センター5F
- 異業種京都「異業種京都 第32回理事会」
時間：15:00～17:00
場所：京都府産業支援センター2F
- 8 (木)** ●京都品質工学研究会 輪読会
時間：10:00～12:00
場所：京都府産業支援センター5F
- 京都品質工学研究会 定例会
時間：13:10～16:40
場所：京都府産業支援センター5F
- 12 (月)** ●3次元CAD/CAM/CAE体験講習会(CAD・ソリッド)
時間：13:30～16:00
場所：京都府産業支援センター1F
- 13 (火)** ●京都府中小企業技術センター 研究・調査成果発表会
時間：10:00～17:00
場所：京都府産業支援センター5F ほか
- 3次元CAD/CAM/CAE体験講習会(CAD・サーフェス)
時間：13:30～16:00
場所：京都府産業支援センター1F
- 14 (水)** ●3次元CAD/CAM/CAE体験講習会(CAM・CaelumKKen)
時間：13:30～16:00
場所：京都府産業支援センター1F
- 15 (木)** ●3次元CAD/CAM/CAE体験講習会(CAM・WorkNC)
時間：13:30～16:00
場所：京都府産業支援センター1F
- 15 (木) ▼ 16 (金)** ●アクセス初級講座
時間：10:00～17:00
場所：京都府産業支援センター2F
- 16 (金)** ●3次元CAD/CAM/CAE体験講習会(CAE)
時間：13:30～16:00
場所：京都府産業支援センター1F
- 第2回新素材・加工技術セミナー
時間：13:00～16:00
場所：シャットコ(株) 八木工場
- 27 (火)** ●創援隊交流会
時間：14:00～17:00
場所：新都ホテル
- 29 (木) ▼ 30 (金)** ●アクセス応用講座
時間：10:00～17:00
場所：京都府産業支援センター2F

September 2005.9.

- 1 (木) ▼ 2 (金)** ●エクセルビジネス活用講座
時間：10:00～17:00
場所：京都府産業支援センター2F

専門家特別相談日

(毎週木曜日 10:00～16:00)

○申込は、事前に相談内容を(財)京都産業21 お客様相談室までご連絡ください。
TEL 075-315-8660 FAX 075-315-9091

取引適正化無料法律相談日

(毎月第二火曜日 13:30～16:00)

○申込は、事前に相談内容を(財)京都産業21 産業振興部 マーケティング支援グループまでご連絡ください。
TEL 075-315-8590 FAX 075-315-9240

海外ビジネス特別相談日

(毎週木曜日 13:00～17:00)

○申込は、事前に相談内容を(財)京都産業21 海外ビジネスサポートセンターまでご連絡ください。
TEL 075-325-2075 FAX 075-325-2075

京都府産業支援センター <http://kyoto-isc.jp/> 〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町134

財団法人 京都産業21 <http://www.ki21.jp/>

代表 TEL 075-315-9234 FAX 075-315-9091
けいはんな支所 〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台1丁目7(けいはんなプラザ ラボ棟)
TEL 0774-95-5028 FAX 0774-98-2202
北部支所 〒627-0011 京都府京丹後市峰山町丹波139-1(京都府繊維・機械金属振興センター内)
TEL 0772-69-3675 FAX 0772-69-3880

編集協力/ショウワドウ・イープレス株式会社

京都府中小企業技術センター <http://www.mtc.pref.kyoto.jp/>

代表 TEL 075-315-2811 FAX 075-315-1551
けいはんな分室 〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台1丁目7(けいはんなプラザ ラボ棟)
TEL 0774-95-5027 FAX 0774-98-2202

R100
白紙配合率100%再生紙を使用しています